

ライフコース決定の文脈からみた
育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

ライフコース決定の文脈からみた
育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

宮本 純子 (近畿大学九州短期大学)

A Study of the Sense of Self-Determination and Time Perspective of Childrearing Mothers
from the Context of Life Course Decisions
Junko Miyamoto (Kyushu Junior College of Kindai University)

要旨

本研究では育児期母親のライフコースの決定において、どのように自己決定したのかという文脈に着目し、その状況や気持ちを語りの中から把握し、決定の文脈と母親の自己決定感および時間的展望について考察した。調査協力者 12 名を、時間的展望の高低によって 6 名ずつに分けて、SCAT (大谷, 2008) を用いて分析した。結果、時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈は、自分の意志ではなくさまざまな外的条件により選択せざるを得ないライフコースを決定していた。時間的展望の高い母親は望んだライフコースを選択したり、不意本意な選択にも意味を見出したり、健全に明らめたりして、その人なりの決定の文脈を経て納得していた。ライフコースの決定において、ライフコース決定の文脈の中で外的要因から自分の主体性、自己決定へと変化していることが時間的展望に肯定的な影響を与えていると考えられた。

キーワード : ライフコース決定, 文脈, 時間的展望, 自己決定感, 育児期母親

Abstract

This study focused on the context of childrearing mothers' self-determination of their life courses. We analyzed the context of the decision, the mothers' sense of self-determination, and their time perspectives by examining the circumstances and feelings surrounding the decision from their narratives. The 12 participants were divided into groups of six based on their high and low time perspectives and analyzed using SCAT (Otani, 2008). The results showed that the life course decision of mothers with low time perspectives was one in which they were forced to choose a life course due to various external factors rather than their own will. Mothers with high time perspectives chose the life course they desired, found meaning in unexpected choices, and made sound decisions, ultimately reaching a comfortable decision-making context. In determining one's life course, the shift from external factors to one's own initiative and self-determination in the context of life course decisions was thought to have a positive impact on time perspective.

Keywords : life course decisions, context, time perspective, sense of self-determination, childrearing mothers

1. 問題と目的

宮本 (2019) は、アイデンティティ拡散傾向の育児期母親の中で、希望のライフコースを選択できない母親群の中に自己決定感が高いにも関わらず時間的展望が低い母親群が存在することを示唆した。

時間的展望とは、“ある一定の時点における個人の心理学的過去および未来についての見解の総体”

(白井, 1995) と定義されている。育児期母親の自己決定感は時間的展望に何らかのプラスの影響を与える (宮本, 2013) ことが報告されている。それにもかかわらず、自己決定感が高いことが、時間的展望の高さに繋がらないとは、どういうことであろうか。

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

自己決定感が高く時間的展望が低い母親群を宮本(2019)は「葛藤群」と名付けた。そして「葛藤群」の自己決定感の極度の高さは、自分の現実のライフスタイルを「自ら選んだ」と殊更に思い込ませていたり、夫に依存できず「自己決定するしかない」状態も考えられたため、夫婦の関係性などさまざまな要因が背景にあると推察した。

畑野(2010)は、青年が将来の生き方を自己決定していく中で文脈が与えている影響に焦点を当てることが必要であると述べた。育児期の母親の自己決定もどのような文脈の中でなされたのかに着目する必要があるだろう。特にライフコースの選択においては、社会や家族の関係性の中で、育児期の母親がどのような文脈で自己決定しているかという視点は重要であろう。育児期の母親において、母親自身の自己決定したい欲求と自己決定感とのズレを小さくすることは充実感を高めるため夫婦間でバランスのとれた決定をいかにしていくかという点に配慮することの必要性が示唆されている(宮本、2013)。母親の自己決定したい欲求と現実との折り合いを母親は実際にどのようにしているのだろうか。そして、その決定のしかたによっては、時間的展望に何らかの影響をもたらすのではないだろうか。

原田(2008)は、現代の母親たちは「親としての役割を担うこと」と自分自身の「自己実現」の狭間で悩んでいると指摘し、人生の根幹にかかわる根が深いものであると述べた。母親のライフコースの決定は、この人生の根幹にかかわる重大な決定になる場合もあり、その後の人生や時間的展望にも影響する可能性があるだろう。

そこで、本稿では、乳幼児をもつ母親のライフコースの決定において、どのように自己決定されたのか、文脈に着目し、その決定の状況や気持ちを語りの中から把握する。さらにそのライフコース決定の文脈は、時間的展望に違いをもたらすのかを検討するため、育児期の母親を時間的展望の高群と低群に分けて把握する。

本研究の目的はライフコース決定の文脈から、育児期母親の自己決定感と時間的展望について考察することである。なお、本論で分析するデータは、宮本(2015)がすでにライフコース決定の文脈と育

児不安の関係を事例としてすでに記述しているが、時間的展望との関係は分析しておらず、さらに質的分析はしていなかったため、本稿では時間的展望に着目して質的に再分析する。

2. 方法

1) 面接協力者

乳幼児(0-6歳)をもつ母親。面接調査に同意して下さった方16名の中から、ライフコース(一致不一致も含めて)の群間の偏りが小さくなるように、時間的展望得点に配慮し選定した12名。

2) 調査手続き

面接場所については、協力者と合意の上、決定。面接時間は概ね60分~90分で半構造化面接を実施した。ライフコースを決める時の状況や気持ちを自由に語ってもらった。なお、いつでも、面接を途中でやめることができることなど伝え、倫理的な配慮をしながら進めた。なお、調査は2010年12月-2011年2月に行われた。

3) データの分析方法

インタビューはすべて録音し、音声データを逐語録化したものを分析対象の質的データとした。質的データはSteps for Coding and Theorization(SCAT)(大谷、2008)を用いて分析した。SCATとは、専用のフォーマットに、逐語録からセグメント化したデータを記述し、それぞれに(1)データ中の着目すべき語句、(2)それを言い換えるためのデータ外の語句、(3)それを説明するための語句、(4)そこから浮かび上がるテーマ・構成概念、の順にコードを考案して付していく4ステップのコーディングと、そのテーマや構成概念を紡いでストーリー・ラインと理論を記述する手続きとからなる分析手法である(大谷、2008、2011)。ストーリー・ラインとは、分析結果から得られたテーマ・構成概念の意味を再文脈化するために構造化を行ったもので、データに記述されている出来事に潜在する意味や意義についてテーマを紡ぎ合わせて書き表したものと定義されており、出来事を、その関係性も含めて記述したものである。理論記述はこのストーリー・ラインを断片化することにより得られ、ストーリー・ライ

ライフコース決定の文脈からみた
育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

ンに埋め込まれた理論を端的に一般性、統一性、予測性などを有する記述形式に表記したものである（大谷、2019）。本研究で SCAT による分析を使用した理由は、分析手続きが定式的・明示的であること、比較的小規模データに有効であるため、本研究に適していると判断した。なお、分析は著者および心理臨床家 1 名と共同で行った。

4) 倫理的配慮

本研究は、調査への協力は回答者の自由意思であること、得られた情報は、今回の調査目的以外には使用しないこと、個人が特定されることはないこと、インタビューの応諾を持って同意いただいたこ

ととすること、インタビュー内容は IC レコーダー等で録音し、逐語を作成して分析することを説明し、回答者の了解を得た上で、実施した。

3. 結果

調査協力者の中から選定した 12 名を時間的展望の高低によって 2 群に分けた。時間的展望得点は 42 点から 55 点 (A,B,C,D,E,F) と 63 点から 85 点 (h,j,k,l,m,n) の幅で分布する (Table 1)。

Table 1 面接協力者のプロフィール

	年齢	子の年齢	性別	家族	学歴	希望のライフ	現実のライフ	ライフコース	生きがい					自己決定	決定欲求	差	現在の充実感	将来の目標	過去の受容	将来の希望	時間的展望
									1 子育て	2 仕事	3 趣味	4 地域	5 模索								
A	30代	3,1	ff	核	高	III	IV	不	1		3			22	34	12	9	20	7	8	44
B	40代	2	f	核	大	I	IV	不		2			5	23	48	25	10	21	7	16	54
D	30代	5,1	fm	核	短	I	II	不	1	2				27	34	7	15	10	10	12	47
C	30代	3,2	f,m	核	大	III	III	一致					5	26	40	14	13	14	13	15	55
E	30代	3,2	mm	核	専	I	I	一致	1	2	3			32	42	10	15	13	13	13	54
F	30代	3	f	核	短	II	II	一致					5	28	32	4	12	7	11	12	42
h	30代	1	f	核	短	I	III	不	1		3			39	37	-2	18	19	20	20	77
l	30代	6,2	m,f	核	大	I	III	不	1		3			40	48	8	25	21	20	18	84
m	30代	3,1	m,m	核	大	I	IV	不	1			4		34	46	12	24	21	20	20	85
j	30代	1	f	核	短	III	III	一致	1					38	46	8	19	19	18	17	73
k	30代	6,3	f,m	核	短	III	III	一致			3			34	35	1	16	10	20	17	63
n	30代	3	f	核	大	IV	IV	一致	1		3	4		35	45	10	20	14	14	18	66

(1) SCAT による分析結果

時間的展望の高低により 2 群に分けた母親 6 名ずつの SCAT による分析の結果から得られたライ

フコース決定の文脈のストーリー・ライン、理論記述について提示する (Table 2, 3)。

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

1) 時間的展望の低い母親

Aさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「妻の就業に関する夫婦間の意見の相違が見られている。夫は専業主婦を望む一方で、妻は仕事を続けたいという気持ちがあり、産後も就業継続できる職場に転職したにもかかわらず体調不良になり、妻は身体の不調により退職し専業主婦になっている。子どもが大きくなったら再就職希望がある」。

理論記述は「就業に関して夫婦間で意見の相違がみられ、就業継続できる職場に転職したにもかかわらず体調不良になり、専業主婦を選択せざるを得なくなった。子どもの成長に応じて再就職することで折り合いをつける」。

Bさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「夫の転勤という物理的な理由による退職は本意であったため、初めは文句を言っていたが、育児が同時に始まったことを考えると、偶然の重なりで仕事が継続できないようになっていたと考えるようになった。さらに新たな可能性に向けて職種を転向し、トレーニングを積んで行こうと思うことは、夫の異動に伴う好きな仕事の諦めに繋がった可能性がある」。

理論記述は「夫の転勤という物理的な理由による退職は本意である。妊娠も重なり、好きな仕事が継続できないようになっていたと考えるようになった。新たな可能性に向けて職種を転向し学びの途中である」。

Dさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「転職しようと思ったタイミングで妊娠が発覚し、転職もうまくいかず退職する。育休・産休があり、子どもが育てやすい職場環境を希望している」。

理論記述は「転職しようと思ったタイミングで妊娠が発覚し退職した。子どもが育てやすい職場環境を希望」。

Cさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「夫は転勤があるため、夫の転勤に合わせて自分の仕事を短期でしてきた。夫

の仕事が落ち着いたら再就職しようと考えている。子育ては子どもが小さいうちは預けて働くメリットがないため、専業主婦として子どもを預けずに子育てに専念している」。

理論記述は「夫の転勤があるため、夫の転勤に合わせて短期で仕事をして、夫の仕事が落ち着いた時に再就職予定。子どもが小さいうちは、預けて働くメリットを感じないため、専業主婦として子育てに専念」。

Eさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「結婚と同時に転居しているが、仕事は内容を変えても継続し、出産後にパートになって雇用形態を変化させている。生活に即した働き方をして、ライフバランスを考えている。社会とのかかわりを求め、扶養を嫌い、経済的自立を望み、仕事を継続することを選択し、自立を望んでいる」。

理論記述は「結婚・出産後は雇用形態を変化させ、生活に即した働き方をしている。自立した女性として、社会とのかかわりを持ち経済的自立を目指し、仕事は続けている」。

Fさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「夫の転勤という外的事情で仕事を辞めざるを得なくなった。伝統的価値観に縛られ妻が本意な退職をする。女性が仕事を辞めるという性役割の不平等さを感じている。子育てへの社会的理解が深まり、産休がある会社での就業継続を希望している」。

理論記述は「夫の転勤という外的事情で退職する。伝統的価値観に縛られ妻が仕事を諦める。就業継続ができるように子育てへの社会的理解や性役割の平等性を求めている」。

① 時間的展望の低い母親のストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈は、自分の意志ではなくさまざまな外的条件により選択せざるを得ないライフコースを決定していた。①体調不良、②夫の転勤③予想していなかった妊娠によりライフコースを

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

決定していた。①就業に関して夫婦間で意見の相違が見られ、夫を優先に考え、身体にも不調をきたしていた(A)。また、②夫の転勤に伴い、ついて行くために短期の仕事しかできなかつたり(C)、意志に反して退職しなければならなかつたり(B)、就業を諦めるのは女性であるという性役割の不平等さに対する不満があつた(F)。また、③転職しようとした矢先に予想していなかつた妊娠をして、子育てしやすい職場環境に移ることができず、退職に繋がつたということもあつた(D)。一方、仕事を継続できた母親も、夫の転勤のため仕事の内容や質を変えて仕事をしており、望んだ仕事を続けることはできなかつた(E)。自分の現状に対してさまざまな形で納得がいかないまま、葛藤を抱え生活しており、過去の選択を受容できぬまま現在の充実感が低くなり、将来の展望が見えにくくなつていと予想された」。

理論記述は「自分の意志ではなくさまざまな外的条件により選択せざるを得ないライフコースを決定していた。体調不良、夫の転勤、予想していなかつた妊娠によりライフコースを決定していた。夫を優先に考え、職業選択における不平等さに不満を抱いている。希望したライフコースを選択できずに葛藤を抱え納得できずに生活していることが窺えた。過去の選択を受容できぬまま現在の充実感が低くなり、将来の展望が見えにくくなつていと予想された」。

2) 時間的展望の高い母親

hさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「夫の転勤で仕事を始めようとした矢先に妊娠したので、それは専業主婦という選択をせざるを得ない妊娠だつた。子育てと両立できない仕事だつたので健全な明らめをした。ならざるを得ない専業主婦だつた。気持ちの折り合いのつけ方および知足を子どもが生まれたことで学び、欲張らないことにした。30歳からは仕事ではないことをしっかりとすると発想の転換をした。妊娠と新しい仕事を始めようとした時が一致したので、偶然の出来事の意味を考えた。縁や運を感じるような偶然の出来事への信頼は高く、直観は外れないという思いがあり直観を信じて仕事をしなかつた」。

理論記述は「仕事を始めようとした矢先の妊娠、子育ては両立しにくい仕事だつたので、専業主婦にならざるを得なかつた。子どもが生まれたことで気持ちに折り合いをつけることや知足を学んだ。偶然の出来事に意味を考え、運や縁を信じて自分の道を決めた」。

lさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「社内恋愛のため、働きにくくなり寿退社する。自ら退職希望だつたため、仕事に対する未練はなく、結婚が仕事を辞めるいいきっかけとなつた。必然的に始まりは専業主婦だつた」。

理論記述は「結婚が仕事を辞めるいいきっかけになり、寿退社する。必然的に専業主婦になる」。

mさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「結婚してから2年間は夫とは互いの勤務先が離れていたため別居生活をして仕事をしてしたが、出産など2人の人生設計を踏まえ、同居して契約社員になつた。出産まで就業を継続した。育休や産休もあり職場環境は良かったが、育児による職場への迷惑や仕事による子どもへの負担を考えると、仕事と育児の両立は難しいという健全な明らめが生まれた。仕事や育児の両方に対する責任感から、専業主婦となる」。

理論記述は「就業継続を希望していたが、2人の人生設計から契約社員となる。育児による職場への迷惑や、仕事による子どもへの負担など、仕事と育児の両立は難しいと仕事を健全に明らめ、退職する」。

jさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「今まで状況に応じた働き方をしてきて、その時その時に合わせて柔軟な生き方をしてきた。もともと子どもが小さいうちは預けてまで働く気持ちもなく、子どもに無理をかけない専業主婦よりの親のような生き方をしたいと考えていた。どうしても専業主婦になりたいというつもりもなく、今の環境がそうさせた」。

理論記述は「その時の状況に応じた柔軟性を持ち働く構え。絶対に専業主婦が良いという頑なな考え

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

はない。子どもが小さいうちは子どもに無理をかけない専業主婦寄りの親のような生き方を望んでいる」。

kさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「仕事ははじめのあるところで区切りをつけるため、結婚式を1年延ばしている。納得の行く仕事の終え方をして、夫に自分の望む生き方を主張できる。子どもは自分で育てるという信念を持ち、自ら望んで子育てに専念することとし、結婚退職をしてからは専業主婦」。

理論記述は「仕事を納得の行くところまでして、結婚退職している。子どもを自分で育てるため専業主婦となる」。

nさんのストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「流産後に授かった子どもで、子どもの成長を見れる大切な時を仕事で失いたくない。仕事をしながら子育てをしたら、子どもの成長を見れない毎日になり、もったいなく思えたので仕事を辞めた。自分も3歳まで母親と一緒にいて育ったので、3歳まで一緒にいた母親がモデルになっている。ただ、ほんの少ししかない子どもとの時間をもう少し大切にしたい方が後悔しない人生を送れるように感じ、自分が仕事を始める時期を模索している」。

理論記述は「流産後に授かった子どもの成長を見守りたくて、仕事を辞めた。3歳まで一緒にいた母親がモデルになっている。一生にほんの少ししかない子育ての時間を大切にしたい、仕事を始める時期を模索している」。

② 時間的展望の高い母親のストーリー・ラインと理論記述

ストーリー・ラインは「時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈は、大きく分けて4つのストーリーがあった。①結婚を機に仕事を辞めた。②子育てのために仕事を辞めた。③環境によっては継続したかもしれないが、環境に左右されて辞めた。④仕事を続けたかったが、子育てとの両立が無理と

判断して辞めた。まず、①結婚を区切りとしてライフコースを決定した場合である。寿退社のように結婚を機に退職することを希望し、少なくとも現職場に対する未練はなく、気持ちよく辞めていた(1)。子育てを自分でするつもりで、仕事を納得の行くところまでして結婚を機に仕事を辞めていた。自分の意志で選択しているため葛藤はない(k)。また、②流産を経て子どもに恵まれた母親は、仕事より子育てを選択し、子どもの成長を見守ることを喜びとして後悔しない人生を送ろうとして仕事を選択しなかった。3歳まで子どもと一緒にいた自分の母親をモデルとして、仕事を始める時期を模索していた(n)。同じように子どもができて仕事をしてないが、③状況に応じて仕事を続け柔軟に生きてきたため、無理のない働き方を希望し、子どもが小さいうちは専業主婦を希望。親がモデルになっている(j)。④就業継続を希望したが、子育てとの両立が難しい仕事内容なので、職場に迷惑をかけないこと、子どもにも負担をかけないことを考えて専業主婦になった(m)。また、同じように就業継続希望だったが、子育てをしながらできる仕事ではなかったため、自分の気持ちの折り合いをつけたり、妊娠のタイミングに意味を見出したりして、自分自身に起きた状況を受容した。現時点では様々な文脈で仕事を辞めていたが(就業継続型の母親は本調査では存在しなかった)、時間的展望の高い母親は自分のライフコース決定にその人なりの文脈を経て納得していた」。

理論記述は「ライフコース決定の文脈において、自分の希望通りの選択ができている場合は、葛藤もなく選択したライフコースに納得していた。就業継続を希望しながら仕事と子育ての両立が難しい場合、健全な明らめをしていた。自分の気持ちの折り合いをつけ、出来事の偶然性に意味を見出し、置かれている状況を受容していた。時間的展望の高い母親は自分のライフコース決定にその人なりの文脈を経て納得していた」。

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

Table2 時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈 分析結果

番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題
1	A1	専業主婦、だんなは専業主婦の方がいいと、まあ私も本当は働きに行きたかったんですけども、体がこんな調子なんで、しばらくは専業主婦かな。	旦那は専業主婦がいい。 働きたい 体の調子	夫の希望 仕事願望 体調不良	夫優先 性役割 夫との意見の相違 身体	就業に関する夫婦間の意見の相違 身体の不調	自分の本音と夫の考えの違いに身体が反応してないか
2	A2	中学生・高校生くらいに、小学生だとちょっと寂しい思いさせそうなので、それくらいになれば行ってもいいかなくらいを。一日中家にこもるのも、息が詰まりますしね。	中・高生になったら仕事に行ってもいいかな 家にいるのは息がつまる	子どもが大きくなったら 再就職 家にいる閉塞感	再就職の時期 生活のバランス	子どもが大きくなったら 再就職希望	子どもが大きくなるまで、息が詰まらないか。
3	A3	結婚してからパートで働きに行っていたんですけど、もう歩けないので妊娠して辞めましたね。本当はそこ、全然産休とかも取りやすいんですけど、続けるつもりだったんですけどね。妊娠しても働き続けるようなところに職を変えたんで。仕事もしたかったし、せっかくそのつもりで始めた職場なのに。産後もねえ、子育てしながら働きやすい職場って、望み通りのところに入ったつもりが。へこみますね。	歩けない。 続けるつもり・産後も働 きやすい職場に変えた へこむ	歩行困難 産後働ける職場へ 落ち込む	就業継続希望 希望と現実 無意識的な葛藤	産後も就業継続できる職場に転職したにもかかわらず体調不良	
イリス ン ト ラ イ		妻の就業に関する夫婦間の意見の相違が見られている。夫は専業主婦を望む一方で、妻は仕事を続けたいという気持ちがあり、産後も就業継続できる職場に転職したにもかかわらず体調不良になり、妻は身体の不調により退職し専業主婦になっている。子どもが大きくなったら再就職希望がある。					
記 述 論		<ul style="list-style-type: none"> ・就業に関して夫婦間で意見の相違がみられ、就業継続できる職場に転職したにもかかわらず体調不良になり、専業主婦を選択せざるを得なくなった。 ・子どもの成長に応じて再就職することで折り合いをつける。 					
べ 及 す 追		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の本音と夫の考えの違いに葛藤を抱えていることに気づいていない可能性 ・子どもが大きくなるまで、息が詰まらないか。 					
番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題
4	B1	前していた仕事は、もちろん続けたかったのですが、職場結婚で、転勤でこっちにきたんですけど、こちらの支社で前は働くこと、できたんですけど、ま、ちょっと今、難しい状況になっていて、	仕事を続けたかった 職場結婚 転勤 支社で今は働けない	就業継続希望 職場の規定変化	好きな仕事 諦め	夫の異動に伴う好きな仕事の諦め	
5	B2	そちらにはもう、戻れないので、別の仕事をしようと思っていて、それが、心理系の仕事なんですけど・・・それは、もう7、8年くらい続けていて、・・・時々、知り合い系というのでやったりもするんですけど、まだ、軌道に乗せてやっていると感じてはなくて、まだ、お勉強というかトレーニングとかメインにしていこうと思って。	別の仕事へ 勉強中・トレーニング中	職種の転向 学びの途中	可能性の発見	新たな可能性に向けて職 種の転向	新しい可能性を子育てをしながら、どのように達成するか。
6	B3	仕事をやめたのと育児が始まったのがほぼ同時っぽい感じですね。辞めざるを得ない、物理的にも・・・子どもができてしまったし・・・転勤というのは物理的な理由なので仕方ないという・・・ぶつくさ文句言ってたんですけど・・・子どもが〇〇県で生まれたとしても、なんだかんだ言って続けていきたい仕事ではあったんです。ま、それは、いろんなタイミングでできなかったということですか・・・	辞めざるを得ない 物理的理由 文句 続けていきたい仕事 タイミング	物理的理由で退職 不本意 継続希望の仕事 巡り合わせ	自分の意志ではない やりがい 継続できない運命	不本意 物理的な理由による退職 偶然の重なり	
イリス ン ト ラ イ		夫の転勤という物理的な理由による退職は不本意であったため、初めは文句を言っていたが、育児が同時に始まったことを考えると、偶然の重なりで仕事が継続できないようになっていたと考えるようになった。さらに新たな可能性に向けて職種を転向し、トレーニングを積んで行こうと思うことは、夫の異動に伴う好きな仕事の諦めに繋がった可能性がある。					
述 理 論 記		<ul style="list-style-type: none"> ・夫の転勤という物理的な理由による退職は不本意である。 ・妊娠も重なり、好きな仕事が継続できないようになっていたと考えるようになった。 ・新たな可能性に向けて職種を転向し学びの途中である。 					
す 及 追		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい可能性を子育てをしながら、どのように達成するか。 					

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

Table2つづき① 時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈 分析結果

番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題
7	D1	仕事はもともと短大卒業して営業やっていて、ちょっと違う仕事に向かおうかなと思った時に、お腹に居るっていうのがわかって、できちゃったんですよ、一人目はですね。	違う仕事に転向 出来ちゃった	転職希望 妊娠発覚	キャリア転向 予想していなかった妊娠 タイミング	転職しようと思ったタイ ミングで妊娠	
8	D2	仕事ができないじゃんみたいな、でそういう子どもができてしまうと普通に仕事ができないですよ。すぐ休める所じゃないといけないとか、いろんな条件が出てくるから。	仕事ができない 休める勤務条件	フルタイム勤務が無理 職場の条件	就業継続希望 妊娠および育児に対して 理解のある職場環境	子どもが育てやすい職場 での勤務希望	子育てをしながら 仕事を継続できる 職場環境に再就職 できるか
ラ リ ト イ イ		転職しようと思ったタイミングで妊娠が発覚し、転職もうまくいかず退職する。育児・産休があり、 <u>子どもが育てやすい職場環境を希望している。</u>					
記 述 論		・転職しようと思ったタイミングで妊娠が発覚し、退職した。 ・子どもが育てやすい職場環境を希望。					
べ 及 に き す 追		・子育てをしながら仕事を継続できる職場環境に再就職できるか					
番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題
9	C1	夫が転勤があるんですよ。その都合でいつ転勤になるかわからないので、ちゃんとした仕事は永住先が決まるまではできないだろうなと思っていた。	夫の転勤 永住まで仕事できず	永住先で仕事 専業主婦	夫優先 性役割分業	夫の仕事が落ち着いたら 再就職	
10	C2	とりあえずは子どもがまだ小さいので、預けてまで働くメリットがあまりないので、たぶん当面は専業主婦ということにしているんだと思います。	子ども小さい 預けて働くメリット 当分専業主婦	子どもを預けるメリッ トのなさ 子どもが小さいうちは子 育てに専念	再就職希望型	専業主婦として子どもを 預けずに子育てに専念	
11	C3	物理的に転勤があるので、ご迷惑がかかるので、子どもができるまでも短期のアルバイトのようなこと。6か月とか3ヶ月とか決まったやつしかしてないんですよ。妊娠して辞めたんじゃないかと、期限付きをもととしてたので、うまい具合に妊娠してすぐ辞めた感じですね、期限切れで。主人の転勤が7月なので、6月までとかそういうバイトをわざと選んで、あんまり迷惑がかかるので。	転勤 職場への迷惑 短期アルバイト 期限切れと妊娠一致	迷惑 夫の転勤に合わせた期限 付きの仕事	短期契約の仕事 夫や社会的責任を優先	夫の転勤に合わせた自分 の仕事	短期であれば、仕 事の内容は問わな いのか
ラ リ ト イ イ		夫は転勤があるため、 <u>夫の転勤に合わせて自分の仕事を短期でしてきた。夫の仕事が落ち着いたら再就職しようと考えている。</u> 子育ては子どもが小さいうちは預けて働くメリットがないため、 <u>専業主婦として子どもを預けずに子育てに専念している。</u>					
記 述 論		・夫の転勤があるため、夫の転勤に合わせて短期で仕事をして、夫の仕事が落ち着いた時に再就職予定。 ・子どもが小さいうちは、預けて働くメリットを感じないため、専業主婦として子育てに専念。					
す 及 追		・短期であれば、仕事の内容は問わないのか					
番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題
12	E1	ずっと続けてます。そのかわり時間が短くなったりとか、正社員からパートになったりとか、雇用が変わってはいるけど、とりあえずなんか続けています。結婚と同時にこっちに来て、正社員とパートを掛け持ちしてたけど、出産一年後にパートになった。すぐ二人目を妊娠したので。	仕事を続ける 雇用が変わる パート	仕事継続 雇用形態の変化 短時間労働	就業継続希望 ライフバランス	生活に即した働き方 雇用形態の変化	子育てと仕事のラ イフバランス
13	E2	やめたときには急に取残された気分がして・・・やっぱりやだというのがあったんだと思います。社会から置いて行かれる見たいな・・・今まで自分で稼いできて、自分でやってきて、好きなもの買ってというのがある・・・それが収入が自分の収入が全くなかったら・・・全部主人からお金をもらってみたい・・・それも許せないみたい・・・	社会から置いて行かれる 全部主人からお金をも らっている 許せない	社会からの遅れ 扶養 誇り	社会との関わり 経済的自立 自尊心	自立	子育てについての 語りがなかった が・・・
ラ リ ト イ イ		結婚と同時に転居しているが、仕事は内容を変えても継続し、出産後にパートになって <u>雇用形態を変化させている。</u> <u>生活に即した働き方</u> をして、ライフバランスを考えている。社会とのかかわりを求め、扶養を嫌い、経済的自立を望み、仕事を継続することを選択し、 <u>自立を望んでいる。</u>					
記 述 論		・結婚・出産後は雇用形態を変化させ、生活に即した働き方をしている。 ・自立した女性として、社会とのかかわりを持ち経済的自立を目指し、仕事は続けている。					
す 及 追		・子育てと仕事のライフバランス					

ライフコース決定の文脈からみた
育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

Table2つづき② 時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈 分析結果

番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題
14	F1	主人の転勤で、まあやめざるを得なくて仕事をやめたんですけどね。他県に来て、しばらくしたら、子供を授かって2年くらい育てているうちに、やっぱり仕事をしたいなっと思って、社会復帰ということで、部分的に、パートタイム的に探してしてんですけども。再就職というほど大きなものでもないんですけど。	主人の転勤 やめざるを得ない 社会復帰 パート	転居 不本意な退職 社会との関わり パートタイム	力の及ばぬ事情 再就職希望	外的事情 就業継続希望	
15	F2	できればやめたくなかったです。女性ってやっぱりあきらめなきゃいけないので。ずっとできれば産休があるような会社です。続けたかったんですけど、	やめたくなかった 女性って諦めなきゃいけない 産休がある会社	不本意 女性が諦める 産休制度	性役割/男女平等 良妻賢母 育休制度	性役割の不等しさ 伝統的価値観 子育てへの社会的理解	伝統的価値観との葛藤(女性は諦めないとけない?)
ラ リ ト イ ー リ		夫の転勤という外的事情で仕事を辞めざるを得なくなった。 <u>伝統的価値観</u> に縛られ妻が不本意な退職をする。女性が仕事を辞めるという <u>性役割の不等しさ</u> を感じている。 <u>子育てへの社会的理解</u> が深まり、産休がある会社での <u>就業継続を希望</u> している。					
記 述 論		<ul style="list-style-type: none"> ・夫の転勤という外的事情で退職する。伝統的価値観に縛られ妻が仕事を諦める。 ・就業継続ができるように子育てへの社会的理解や性役割の平等性を求めている。 					
追 及 点		「女性は諦めなきゃいけないのか」という自分の中の伝統的価値観との葛藤をどう処理するか					
イ ス ト ー リ ー ラ		時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈は、自分の意志ではなくさまざまな外的条件により選択せざるを得ないライフコースを決定していた。①体調不良、②夫の転勤 ③予想していなかった妊娠によりライフコースを決定していた。①就業に関して夫婦間で意見の相違が見られ、夫を優先に考え、身体にも不調をきたしていた(A)。また、②夫の転勤に伴い、ついて行くために短期の仕事しかできなかったり(C)、意志に反して退職しなければならなかったり(B)、就業を諦めるのは女性であるという性役割の不等しさに対する不満があった(F)。また、③転職しようとした矢先に予想していなかった妊娠をして、子育てしやすい職場環境に移ることができず、退職に繋がったということもあった(D)。一方、仕事を継続できた母親も、夫の転勤のため仕事の内容や質を変えて仕事をしており、望んだ仕事を続けることはできなかった(E)。自分の現状に対してさまざまな形で納得がいかないまま、葛藤を抱え生活しており、過去の選択を受容できぬまま現在の充実感が低くなり、将来の展望が見えにくくなっていると予想された。					
理 論 記 述		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意志ではなくさまざまな外的条件により選択せざるを得ないライフコースを決定していた。 ・体調不良、夫の転勤、予想していなかった妊娠によりライフコースを決定していた。 ・夫を優先に考え、職業選択における不等しさに不満を抱いている。 ・希望したライフコースを選択できずに葛藤を抱え納得できずに生活していることが窺えた。 ・過去の選択を受容できぬまま現在の充実感が低くなり、将来の展望が見えにくくなっていると予想された。 					
追 及 点		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の本音と夫の考えの違いに葛藤を抱えていることに気づいていない可能性 ・子どもが大きくなるまでストレスを抱える可能性 ・伝統的価値観や性役割の不等しさを自分が受け入れているということに気づいていない。 					

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

Table3 時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈 分析結果

番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題	
1	h1	私の場合は転勤でこっちに来ていて、ちょうどX県に来て一年目で妊娠をした。本当は仕事をしようと思っていた矢先に妊娠したので、もうこれは専業主婦だなあと・・・	転勤 仕事をしようと思っていた矢先に妊娠 専業主婦	夫の異動 仕事を見つけた時期の妊娠発覚 就業が難しい状況	仕事の継続希望 専業主婦しかない選択	専業主婦という選択をせざるを得ない妊娠		
2	h2	前の仕事がちょっと制作の仕事だったんで、徹夜したりとか、連ちゃんて帰ってこれなかったりとかいうこともあったんで、こちらで紹介してもらったのもそんな感じだったので・・・	徹夜や連日の仕事を紹介される	ハードな仕事	子育てをしながらできない仕事	子育てと両立できない仕事		
3	h3	結婚して、彼もそこまでは望んでいなかった。制作とかあっちの仕事というのは、子どもがいる状態だとなかなか受けてくれないし、じゃ、フリーでやるとなるとこちらではまだ人脈を作ってなかったんで、もうこれは専業主婦にならざるを得ないなあと自分でももう、割り切っちゃいました	彼も望んでいない 子どもがいてできない仕事 専業主婦にならざるを得ない 割り切る	ハードな仕事を望まない夫 仕事への諦め 気持ちの踏ん切り	仕事と家庭の両立の難しさ 仕事をするとは明らかに難しい状況	ならざるを得ない専業主婦 健全な明らめ		
4	h4	どこで折り合いをつけるかっていうのを・・・子どもが生まれたことで学べたとか・・・欲張っちゃいかんじゃないですけど・・・自分のためには十分生きたので・・・と思えるように妊婦の時になれたんで・・・	折り合いをつける 子どもが生まれたことで学べた 欲張らない 自分のために十分生きたと妊婦の時になれた	受け入れる 子どもの存在からの学び 知足 これまでの自分の人生への振り返り	子どもができたことで感じられた自分の気持ちの折り合い	折り合いのつけ方 知足		
5	h5	30まで仕事をしっかりやったら、それからは仕事じゃないところをしっかりと自分でうすうす気がついて・・・あったのかもしれないですね。	30まで仕事 それ以降は仕事じゃないことをうすうす気がつく	30を区切り 違う世界	30歳からの人生 切り替え	発想の転換	本当にそう思っているか	
6	h6	その決定の一番の要因は子どもだったのかもしれませんが。制作系の仕事は一応探していて、一年たって始めようと思っていたんですけど、そのときにちょうど妊娠したので、ああ、これはもうやらんでいいことかもしれない・・・いろんなタイミングというのがあって、それはきつと意味があるかもしれないって思っている。	子ども タイミング 意味	仕事と妊娠がぶつかった意味	コンステレーション 共時性	偶然の出来事の意味	意味づけがどこまで浸透しているか	
7	h7	多分、何かの区切りでできた声かけだったり、自分の意志は多分外れないなあと、そういうふうな縁とか運とか大きいですね、それに乗ってやるというか。	何かの区切りでできた声かけ 自分の意志外れない 縁や運に乗る	何かの知らせ 自分の意志への信頼 縁や運の利用	直観 自分への信頼 大いなるものへの信頼	偶然の出来事への信頼	これまでの人生経験か	
ナラティブ		夫の転勤で仕事を始めようとした矢先に妊娠したので、それは専業主婦という選択をせざるを得ない妊娠だった。子育てと両立できない仕事だったので健全な明らめをした。ならざるを得ない専業主婦だった。気持ちの折り合いのつけ方および知足を子どもが生まれたことで学び、欲張らないことにした。30歳からは仕事ではないことをしっかりと発想の転換をした。妊娠と新しい仕事を始めようとした時が一致したので、偶然の出来事の意味を考えた。縁や運を感じるような偶然の出来事への信頼は高く、直観は外れないという思いがあり直感を信じて仕事をしなかった。						
記述論		・仕事を始めようとした矢先の妊娠、子育ては両立しにくい仕事だったので、専業主婦にならざるを得なかった。 ・子どもが生まれたことで気持ちに折り合いをつけることや知足を学んだ。 ・偶然の出来事に意味を考え、運や縁を信じて自分の道を決めた。						
べき点		・偶然の出来事の意味づけがどこまで浸透し、納得できているか。 ・自分の直観を信じているのは、これまでの人生経験で得た経験によるものか。						
番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題	
8	l1	社内恋愛だったので、もともと・・・やりずらくなったので・・・主人が上の立場だったので。他の人たちも私に接しにくくなるし・・・私も仕事がやめたかったんで、いいきっかけだし・・・	社内恋愛/上司 やりづらい 仕事をやめたかった いいきっかけ	上司との恋愛 継続困難 自らの希望 きっかけ	寿退社 未練ない退職	寿退社 退職希望		
9	l2	もともと仕事をやめてから結婚したので、・・・結婚を期に仕事をやめたから、まず、専業主婦から始まった。	仕事をやめて結婚 専業主婦	結婚退職 家庭へ	専業主婦から	始まりは専業主婦	その後の人生設計	
ナラティブ		社内恋愛のため、働きにくくなり寿退社する。自ら退職希望だったため、仕事に対する未練はなく、結婚が仕事を辞めるいいきっかけとなった。必然的に始まりは専業主婦だった。						
記述論		・結婚が仕事を辞めるいいきっかけになり、寿退社する。 ・必然的に専業主婦になる。						
べき点		・寿退社し専業主婦となったが、専業主婦を強く希望していたわけではないため、その後の自分の人生設計を考えることが必要になるのではないか。						

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

Table3つづき① 時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈 分析結果

番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題	
10	m1	結婚して4年目に子どもができたんですね。5年目に生まれたんです。ちょっと間があいたんです。その間はちょっと仕事をしてたんですけど・・・	結婚して5年で出産 仕事は出産まで	出産までの就業継続	育児と仕事の両立の難しさ	出産までの就業継続		
11	m2	最初、私はX県で仕事をしていて、主人はY県だったので、結婚して2年くらいは、かよってたんですよ。それもちょっと出産を考えると、難しいかもしれないということで、いったん仕事をやめて、契約という形でY県で仕事に就いたんですよ。	2年は通う 出産を考える 転居して契約社員	別居結婚 出産の時期 契約社員になり同居	生活設計	2人の人生設計		
12	m3	契約で1年働いて、育児休暇もありますよ。産休もありますよという話はいただいたんですけど、やっぱり子供抱えて仕事するには迷惑かける部分もある仕事だったので、あきらめて専業主婦になったという経緯があったんですね。生まれてしまったら、子どもは無理はできないからということでやめました。7ヶ月くらいたってやめた。	育児・産休もあります 迷惑かける 諦めて専業主婦 専業主婦 子どもは無理できないからやめた	職場環境 育児による職場への迷惑 仕事による子どもへの負担 退職	仕事への責任感 育児への責任感 健全な明らめ	仕事と育児の両立は難しいという健全な明らめ 責任感	再就職をどのように設計していくか	
ラ イ ト イ ー リ		結婚してから2年間は夫とは互いの勤務先が離れていたため別居生活をして仕事をしていて、出産など2人の人生設計を踏まえ、同居して契約社員になった。出産まで就業を継続した。育児や産休もあり職場環境は良かったが、育児による職場への迷惑や仕事による子どもへの負担を考えると、仕事と育児の両立は難しいという健全な明らめが生まれた。仕事や育児の両方に対する責任感から、専業主婦となる。						
記 述 論		・就業継続を希望していたが、2人の人生設計から契約社員となる。 ・育児による職場への迷惑や、仕事による子どもへの負担など、仕事と育児の両立は難しいと仕事を健全に明らめ、退職する。						
す 及 追		・再就職をどのように設計していくか。						
番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題	
13	j1	結婚するときに、地元を離れて主人の職場の方に来たので、その地元でずっと10年くらい働いていたので、それはそれで十分いと退職して、家に、・・・専業主婦してたんですけど、子どもができるまで…生まれるまではパートでした。専業主婦というか、一日4、5時間程度の屋間のパートをずっとして、子どもがお腹に入ってからやめたかなあ・・・という感じなんですけど、実は、この子が生まれるまで、4年5年かな・・・Z県の方で主人と二人で暮らしていたんで、お腹が大きくなって、仕事が変わって、ここに来たんで、ここに来てから仕事探してない、というか・・・	10年地元で働いた 結婚して主人のもとへ 子どもがお腹に入るまで パート 仕事探してない	10年勤務 結婚による退職・転居 パート勤務 無職	就職・結婚・パート・無職になるまでの経緯 臨機応変	状況に応じた働き方		
14	j2	・自分はどうしても専業主婦というふうなつもりもなくて、環境がそうさせたというか、もし地元で結婚して、親元が近かったら、もしかしら、協力が無理なくあればしたかもしれないけれど、	専業主婦は環境がそうさせた 協力があれば仕事をした	専業主婦は成り行き	状況に応じた柔軟性	柔軟な生き方		
15	j3	もともと、その働きながら子どもを預けてまで、小さい時にやろうというほどの気持ちは最初からなかった。無理ない程度で働けるなら、やっていきたいかなあくらい気持ちはあったから・・・ま、どちらかというと、専業主婦よりの、もともと親がそうだったから。小さいうちはそうしたいなあというのは、あるね。	預けてまでやる気持ちない 無理ない程度で働けるなら仕事をした 専業主婦より親もそう	子どもが小さいうちは専業主婦希望 無理のない仕事希望 親がモデル	無理のない働き方 親の自然な教え	子どもに無理をかけない専業主婦寄りの親のような生き方		
ラ イ ト イ ー リ		今まで状況に応じた働き方をしてきて、その時その時に合わせて柔軟な生き方をしてきた。もともと子どもが小さいうちは預けてまで働く気持ちもなく、子どもに無理をかけない専業主婦よりの親のような生き方をしたいと考えていた。どうしても専業主婦になりたいというつもりもなく、今の環境がそうさせた。						
記 述 論		・その時の状況に応じた柔軟性をもち働く構え。絶対に専業主婦が良いという頑なな考えはない。 ・子どもが小さいうちは子どもに無理をかけない専業主婦寄りの親のような生き方を望んでいる。						
す 及 追								
番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題	
14	k1	私は保育士だったんです。6年やっていて、3年間で幼稚園、3年間保育園。このときにZ市に移っていて、入籍だけしてたんですけど・・・年長を持っていたので、結婚式を一年遅らせた。	保育士 入籍だけ 仕事のため結婚式を1年遅らせる	保育のプロ 結婚という区切り 仕事優先	仕事に区切り 仕事への責任 自分優先	納得の行く仕事の終え方 自己主張		
15	k2	もともと子どもができたなら、自分で育てようと思っていた。一年終わって結婚式を終えて、3月に退職。	子どもを自分で育てる 一年終わって結婚式	自分で子育て 結婚後退職	育児に関する信念	自ら望んだ子育てへの信念 専業主婦		
イ リ ス ト に 関 する ラ イ		仕事ははじめのところで区切りをつけるため、結婚式を1年延ばしている。納得の行く仕事の終え方をして、夫に自分の望む生き方を主張できる。子どもは自分で育てるという信念を持ち、自ら望んで子育てに専念することとし、結婚退職をしてからは専業主婦。						
記 述 論		・仕事を納得の行くところまでして、結婚退職している。 ・子どもを自分で育てるため専業主婦となる。						
す 及 追								

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

Table3つづき② 時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈 分析結果

番号	発話	テキスト	<1>注目すべき語句	<2>語句の言い換え	<3>テキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題	
16	n1	子供ができるかわからなかったんですね。。2回流産をして、もう子供が生まれてきてくれさえすればいいって、いろいろな思いがある中でふと出来た。	子どもができるかわからない 流産 ふとできた	流産する不安 恵み	子どもは授かりもの	流産後に授かったことも		
17	n2	出来てくれたので、子供が生まれたら、私の場合仕事しながら子育てとかしたら、その子の成長がぜんぜん見えないくらいばたばたした毎日になるのが、すごいもったいないみたいに思えたので、もう仕事は辞めたんですね。	仕事をしたら子どもの成長を見れない もったいない 仕事を辞める	子どもの成長を見る 喜び 仕事より子育て	子どもを見れる大切な時間	子どもの成長を見れる大切な時		
18	n3	自分が3歳まで親と一緒にいたから、なんとなく3歳までは親と一緒にいるものって当たり前のようにたぶん思ってたと思うんですけど。だからあの子が3歳になって、今度の春に年少なんですけどそのあたりで少し自分も子離れとかを考えて、そうなったときに少し自分の仕事のこととかを考え直そうかなって。でもそれでもやっぱりなんか、今働きに出たりすると私がたとえば50歳とか60歳になったときに、あの一生にほんの少ししかない子育ての時間を仕事のことしか覚えてないなあって思ったら絶対後悔するだろうなあって。	3歳まで親と一緒にいるのが当たり前 3歳になったら仕事 今働きに出ると仕事のことしか覚えていないのは後悔	3歳まで子育てに専念 子離れ 3歳から再就職を検討 後悔しない子育て	母親がモデル 子離れと仕事 後悔ない人生	3歳まで一緒にいた母親がモデル 後悔しない人生		
19	n4	小学生の2-3年生になったときに働き場がきちんとあれば働きたいと思ってるんですけど。	小学校2・3年の時に働きたい。	子どもが少し大きくなる時まで	子どもと離れる時期の模索	仕事を始める時期を模索	子どもとの離れ方再就職について	
イリス トリー ライ		流産後に授かった子どもで、 <u>子どもの成長を見れる大切な時</u> を仕事で失いたくない。仕事をしながら子育てをしたら、子供の成長を見れない毎日になり、もったいなく思えたので仕事を辞めた。自分も3歳まで母親と一緒に育てたので、 <u>3歳まで一緒にいた母親がモデル</u> になっている。ただ、ほんの少ししかない子どもとの時間をもう少し大切にしたい方が後悔しない人生を送れるように感じ、自分が <u>仕事を始める時期</u> を模索している。						
述 理 論 記		<ul style="list-style-type: none"> ・流産後に授かった子どもの成長を見守りたくて、仕事を辞めた。 ・3歳まで一緒にいた母親がモデルになっている。 ・一生にほんの少ししかない子育ての時間を大切にしたい、仕事を始める時期を模索している。 						
べ 及 き す 追		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの離れ方について ・再就職について 						
ス ト ー リ ー ラ イ ン		<p>時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈は、大きく分けて4つのストーリーがあった。①結婚を機に仕事を辞めた。②子育てのために仕事を辞めた。③環境によっては継続したかもしれないが、環境に左右されて辞めた。④仕事を続けたかったが、子育てとの両立が無理と判断して辞めた。まず、①結婚を区切りとしてライフコースを決定した場合である。寿退社のように結婚を機に退職することを希望し、少なくとも現職場に対する未練はなく、気持ちよく辞めていた (l)。子育てを自分でするつもりで、仕事を納得の行くところまでして結婚を機に仕事を辞めていた。自分の意志で選択しているため葛藤はない(k)。また、②流産を経て子どもに恵まれた母親は、仕事より子育てを選択し、子どもの成長を見守ることを喜びとして後悔しない人生を送ろうとして仕事を選択しなかった。3歳まで子どもと一緒にいた自分の母親をモデルとして、仕事を始める時期を模索していた (n)。同じように子どもができて仕事をしてないが、③状況に応じて仕事を続け柔軟に生きてきたため、無理のない働き方を希望し、子どもが小さいうちは専業主婦を希望。親がモデルになっている (j)。④就業継続を希望したが、子育てとの両立が難しい仕事内容なので、職場に迷惑をかけることを、子どもにも負担をかけることを考えて専業主婦になった (m)。また、同じように就業継続希望だったが、子育てをしながらできる仕事ではなかったため、自分の気持ちの折り合いをつけたり、妊娠のタイミングに意味を見出し、自分自身に起きた状況を受容した。現時点では様々な文脈で仕事を辞めていたが(就業継続型の母親は本調査では存在しなかった)、時間的展望の高い母親は自分のライフコース決定にその人なりの文脈を経て納得していた。</p>						
述 理 論 記		<ul style="list-style-type: none"> ・ライフコース決定の文脈において、自分の希望通りの選択ができていない場合は、葛藤もなく選択したライフコースに納得していた。 ・就業継続を希望しながら仕事と子育ての両立が難しい場合、健全な明確めをしていた。自分の気持ちの折り合いをつけ、出来事の偶然性に意味を見出し、置かれている状況を受容していた。 ・時間的展望の高い母親は自分のライフコース決定にその人なりの文脈を経て納得していた。 						
べ 追 き 及 す 点		<ul style="list-style-type: none"> ・意味づけに無理がないか、仕事への思いが子育てとの狭間でストレスになっていないか。 ・再就職をいつ、どのようにしたいのか、その後の人生設計について 						

ライフコース決定の文脈からみた
育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

4. 考察

(1) 時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈

時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈では、自分の意志ではなくさまざまな理由によってライフコースを決定していた。夫の転勤 (B、C、E、F) や妊娠 (D)、体調不良 (A) など、さらには妊娠と転勤や体調不良がかぶってしまうという文脈も見られた。ライフコース決定の文脈は、自分の意志とは言い難く外的な理由によって決定されたと推察される。

桜井 (1993) は、自己決定性の高い内発的に動機づけられた行動に着目し、自己決定している感覚を「自己決定感」と名づけている。時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈は内発的に動機づけられていると言えるだろうか。

萩原・櫻井 (2008) は、自己決定的に遂行された行動は適応的な結果と関連があると述べている。また、藤原 (2005) は、ライフコース理論の中からいかなる困難な状況においても、自らの選択によって人生をよりよいものにすることができるという「人間の力の原則」をとりあげ、大学生のライフコース展望において、自己決定の重要性をあげている。

育児期の母親のライフコース決定は大学生に比べて、夫や子どもという他者とのかかわりの中で、自分のライフコースを決めざるを得ない。育児期の母親は揺れ動きつつも、夫や子どもを優先して決定していた。問題はその決め方が、自ら望んで決定したのか、「ねばならない」と思い決定したのかという点は重要である。伝統的育児観や性役割の不平等などが、女性の自己決定の背後に潜んでおり内発的に動機づけられてライフコースを決定するという文脈にはなり難いと考えられた。

Fは夫の転勤で退職し、子どもが2歳過ぎた頃からパートタイムで働いている。「女性ってやっぱり諦めなきゃいけない」と語ったように女性が仕事を諦めるという性役割の不平等さを感じている。Bも夫の転勤で仕事を諦めざるを得なくなった時に、「転勤は物理的な理由で仕方がないけれど、ぶつくさ文句を言っていた」と述べていて、自身の希望で辞めたわけではなく不満があることが理解される。

また、Cは夫の転勤に合わせて自分の仕事を短期でしてきており、Eは夫の転勤に伴い、仕事内容を変えて仕事を継続し、出産後はパートになって雇用形態を変化させている。二人は夫の転勤に合わせて、自分の仕事の内容や勤務形態を変えていることがわかる。自らの内発的動機づけによる決定というよりも、夫の仕事に合わせて選択しなければならなくなったという理由の方が大きい。AとDは、夫の転勤ではなく、妊娠に伴い体調不良になり専業主婦になったり (A)、転職しようと思ったタイミングで妊娠が発覚し退職したり (D) している。どちらも内発的な動機づけというよりも、妊娠という自身の体に起きた出来事によって「ねばならなくなった」とライフコースを決定した文脈だった。

時間的展望の低い母親のライフコース決定の文脈では、内発的に動機づけられてライフコースを決定したとは言い難いことが示唆された。

(2) 時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈

時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈は大きく4つに分けられた。①結婚を機に仕事を辞めた。②子育てのために仕事を辞めた。③環境によっては継続したかもしれないが、環境に左右されて辞めた。しかし、もともと子どもが小さいうちは専業主婦を希望していた。④仕事を続けたかったが、子育てとの両立が無理と判断して辞めた。時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈は、その人なりに納得がいくように決定しており、外的な理由によってライフコースを決定したというストーリーにならなかったことが特徴的である。

ライフコース決定の文脈において、自分の希望通りの選択ができている場合は、葛藤もなく選択したライフコースに納得していた。寿退社をしたlや納得の行くところまで仕事をして自ら子育てを希望して結婚退職したkは職場に対する未練もなく、自分の意志で決定しているため葛藤もない。また、流産後に子どもに恵まれ、子育てのために出産退職したnも子どもの成長を見れることを喜びとし、ライフコース決定の文脈には納得していた。

一方、環境によっては継続したかもしれないが、環境に左右されて辞めたjは無理なく環境に応じて

ライフコース決定の文脈からみた 育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

働くことを希望し、結婚や夫の転勤によって「ねばならない」と思って仕事を辞めたわけではなく、状況によっては続けていたかもしれないという柔軟な考えを持ち合わせ、自身の生き方が反映していた。ライフコース決定の文脈も無理のない自分の希望した選択だった。

また、仕事を続けたかったが、子育てとの両立が無理と判断して辞めた h と m は自分の気持ちの折り合いをつけることができていた。h は夫の転勤に伴い、新しい土地で仕事を始める矢先に妊娠が発覚し、このタイミングで妊娠した意味を考えた。欲張らずに折り合いをつけることや、これまでとは違った歩みをするなど発想の転換もしていた。偶然の出来事に意味を見出し、自分の直観を信じて仕事をしなかった。また、m は、職場に迷惑をかけず、子どもにも負担をかけないことを考えて専業主婦になった。仕事や子育てに対する責任感がある故に、己の力や状況を明らかに見ており、健全な明らめをして、与えられた状況を受容していた。

時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈では、外的な状況によってライフコースを選択しなければならぬ場合も、その状況に対して自分はどう決定したいのか、外的な理由ではなく自分の理由をしっかりと持っていることが示唆された。

5. 総合考察

時間的展望の高い母親と低い母親では、ライフコース決定の文脈において、決定における要因を自分に置いているか物理的な要因を含めた他者に置いているか、また決定したライフコースをどのように受け止めているかという違いが見られた。

時間的展望の高い母親は、自分の希望したライフコースを選べた母親がいる一方で必ずしも望み通りにはいかない母親も存在した。仕事をしようとした矢先に妊娠がわかり、両立が難しい仕事だったために専業主婦を選択せざるを得ないと述べつつも、その外的要因の中に偶然の意味を見出すとともに、これまでの人生を振り返り、今まで生きた人生とは違う道をたどることを選択し、選択した自分を信頼していた。ライフコース決定の文脈までに外的要因から自分の主体性、自己決定へと変化していた。また、同じように子育てと仕事の両立が難しいと判断

して仕事を辞めた母親は、子どもを育てながら仕事をすると職場に迷惑をかける可能性があること、仕事をしながら子育てをすると子どもに負担をかける可能性があること、しっかりと見極め健全に明らめた。子どもという理由で仕事を辞めたのではなく、己の力で両方をやることのできるかどうかを見極め、自己決定していた。ライフコース決定の文脈には己の意志が強く反映されていて自己決定感が高いことが推察された。

また、状況に応じて働くことを希望した母親は、ライフコース決定の文脈においても、柔軟性のある決め方をしており、自分らしく自己決定していた。

時間的展望の高い母親のライフコース決定の文脈は、いろいろな状況にでくわしても、自分という中心軸がぶれずにあり、外的な理由も常に自分のそれまでのありように引き込んで考え、外的な理由ではなく自分の理由として自己決定していた。ライフコース決定の文脈の中で自分なりに不本意なことも消化していた。

一方、時間的展望の低い母親は、ライフコース決定の文脈において、外的な理由によって自分のライフコースは決定されたと思い、自分が決めたこととして受け止めにくく、不本意な気持ちのままにいる自分と折り合いをつけて納得するという文脈には至っていなかった。

神田橋 (2000) は、家族や地域社会、日本文化やその人からみついている価値観が個人を不自由にしており、個人の主体性を発揮させないようにしていると述べている。この外界と、例えば男女差別社会と、主体が戦うような構図になりがちであるが、そうではなく、むしろつぶされている「われの芽」が開花していくような内発的な主体性が出てくることに視点を向けることが大切であると指摘した。時間的展望の低い母親の中で、「女性は諦めなきゃいけないのか」という葛藤を抱えているような母親には、外側を見ることよりも内側で起こっていることに視点を向け、自分の内発的な主体性が生み出されるように促すことが重要であろう。この母親にとどまらず、夫の転勤によって仕事を辞めた母親が多くいた。その仕事を辞める文脈において、外界の価値観を自分に取り込んだゆえに女性は仕事を辞めるという選択をしたのか、それとも社会的価値

ライフコース決定の文脈からみた
育児期母親の自己決定感と時間的展望に関する一考察

観ではなく、己が築いてきた価値観で選択したのか、自分自身が外界にとらわれていない価値観を持ち合わせているかどうかも含めて、考えてみることも必要であろう。

6. 今後の課題

本稿では調査協力者に専業主婦が多くやや偏りが出たため、今後は調査協力者を就業継続型の母親を含めて広く依頼することが必要である。

文献

- 萩原 俊彦・櫻井 茂男 (2008). “やりたいこと探し”の動機における自己決定性の検討——進路不決断に及ぼす影響の観点から. 教育心理学研究, **56**, 1-13.
- 原田 正文 (2008). 子育ての過去・現在・未来. そだちの科学, **10**, 33-37.
- 藤原 善美 (2005). 大学生のライフコース展望における自律性尺度の開発——自己決定理論に基づいて. 進路指導研究, **23** (2), 11-18.
- 畑野 快 (2010). アイデンティティ形成プロセスについての一考察——自己決定を指標として. 発達人間学論叢 **13**, 31-38.
- 神田橋 條治 (2000). 治療のこころ, 7
- 宮本 純子 (2013). 乳幼児をもつ母親の自己決定感が時間的展望と育児不安に及ぼす影響. 心理学研究, **84**, 176-182.
- 宮本 純子 (2015). 乳幼児をもつ母親のライフコース決定の文脈と育児不安. 日本心理臨床学会第33回大会発表論文集.
- 宮本 純子 (2019). アイデンティティ拡散傾向の母親の類型と育児不安との関係. 近畿大学九州短期大学研究紀要, **49**, 145-153.
- 大谷 尚 (2008). 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案——着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, **54**, 27-44.
- 大谷 尚 (2011). SCAT: Steps for Coding and Theorization ——明示的な手続きで

着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法. 感性工学, **10**, 155-160.

大谷 尚 (2019). 質的研究の考え方 - 研究方法から SCAT による分析まで. 名古屋大学出版会.

桜井 茂男 (1993). 決定とコンピテンスに関する大学生用尺度の試み. 奈良教育大学教育研究所紀要, **29**, 203-208.

白井利明 (1995). 時間的展望と動機づけ. 心理学評論, **38**(2), 194-213.